

- 千島海溝津波襲来時の陸側遮水壁の冷媒（ブライン※）漏えいリスク低減を目的として、緊急時に遠隔で操作ができるよう、陸側遮水壁に電動弁を追設し、2月15日、電動弁の単体動作試験および全体的な統合動作試験を実施することとしていました。
- 同日10時18分頃、同試験のため、陸側遮水壁全体へのブライン供給を停止したところ、10時40分頃、ブライントank2基（プラント2系統の2A・2B）において液位低下していることを確認しました。その後、11時00分頃、ブライントankからブラインを陸側遮水壁へ送り出す弁を閉操作したところ、液位低下は停止いたしました。
- その後、現場確認を実施したところ、16時00分頃、6BLK-H1ブライン配管送り側（母管）の接続部からの漏えいを確認しました。
- なお、2系統に分かれている陸側遮水壁設備のうち、ブライントankの液位低下が確認されていないプラント1系統については、16時08分、起動操作を行いました。

※ブライン：塩化カルシウム水溶液（降雪時、道路に散布する融雪剤と同じ成分）

＜[2022年2月15日お知らせ済み](#)>

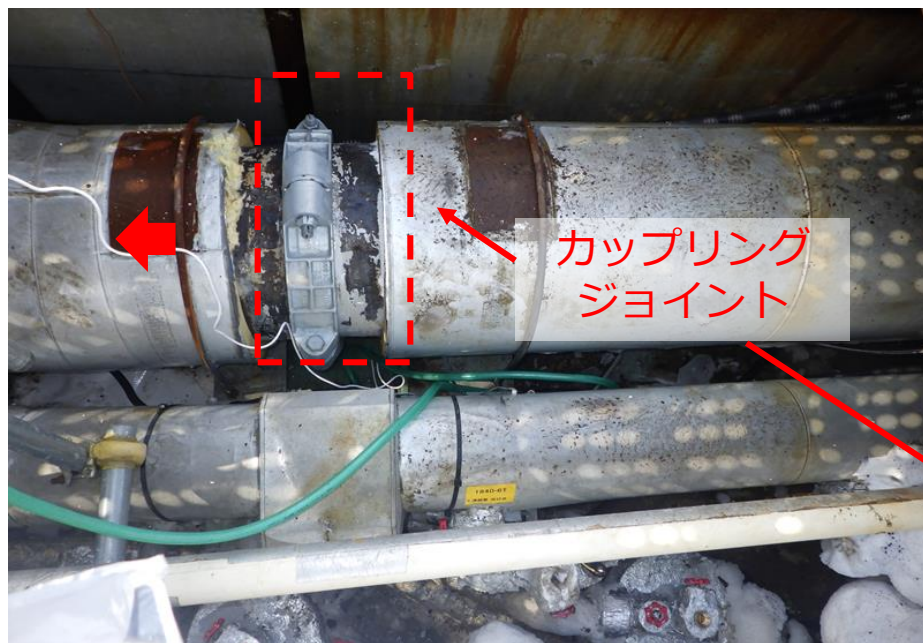
- 2月16日、漏えい箇所保温材を取り外し、配管の接続部（カップリングジョイント）からのブラインの漏えいを確認しました。その後、漏えい箇所付近に溜まったブラインの抜き取り作業を行いました（総量約14m³）。
- 本日、当該カップリングジョイントを取り外し、配管の連結状況を調査した結果、配管接合部のゴムリングのずれが確認されました。今後、当該ゴムリングを取り換えた上で、カップリングジョイントで配管を連結し、陸側遮水壁設備のプラント2系統へのブラインの供給再開を目指します。また、念のための対応として、温度上昇調査を実施している測温管150-7Sに対し、プラント1系統からブラインを供給する調整を実施しております。
- なお、測温管150-7Sにおいて、温度の上昇傾向が確認されておりますが、本日16時現在、測温管の全測定ポイントで0℃以下となっております。

1. 漏えい状況の調査

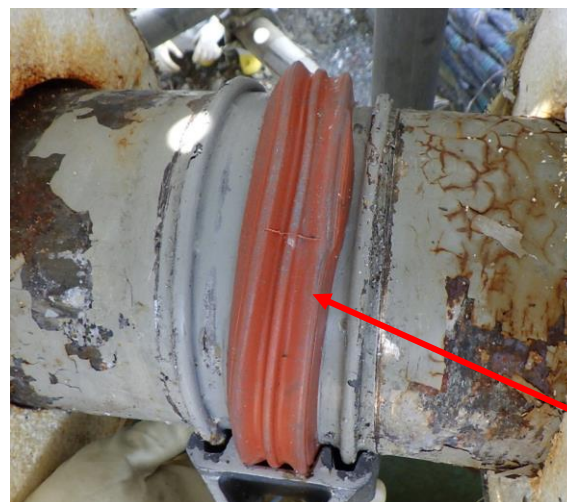
【調査方法】 漏えい箇所の保温材・カップリングジョイントを取り外し、配管の連結状況の調査を実施しました。

【調査結果】 配管接合部のゴムリングのずれが確認されました。

【復旧方法】 当該ゴムリングを取り換えた上で、カップリングジョイントで配管を連結しブラインの供給を再開していきます。

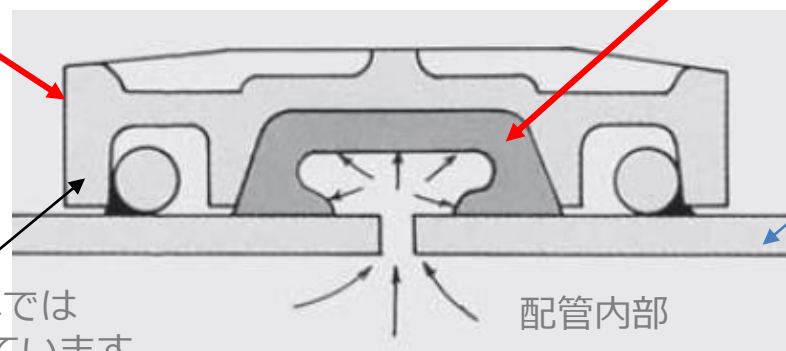


漏えい箇所（保温取り外し後）



ゴムリング

カップリングジョイント（他箇所参考）



配管

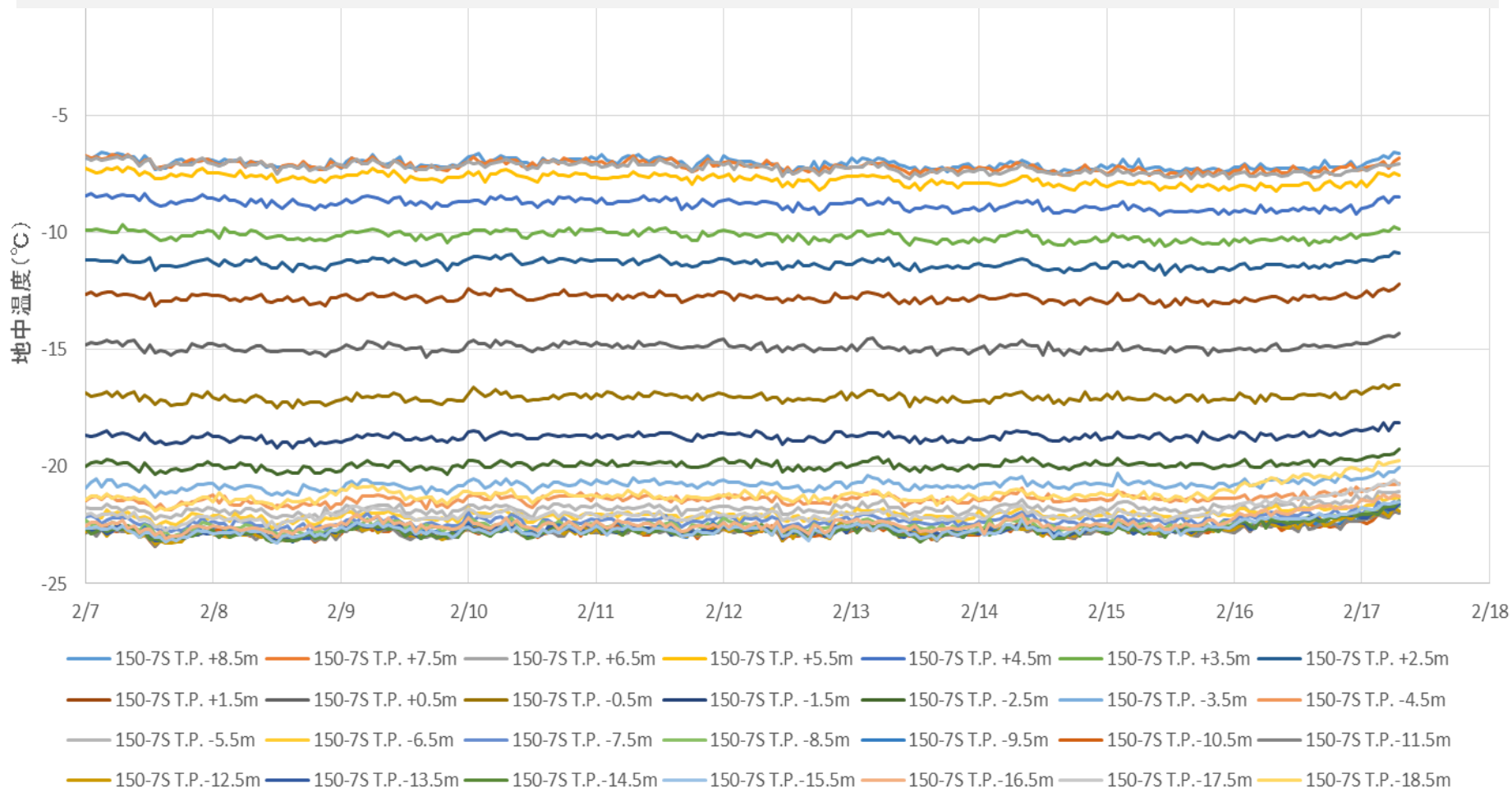
配管内部

上記写真では
取り外されています

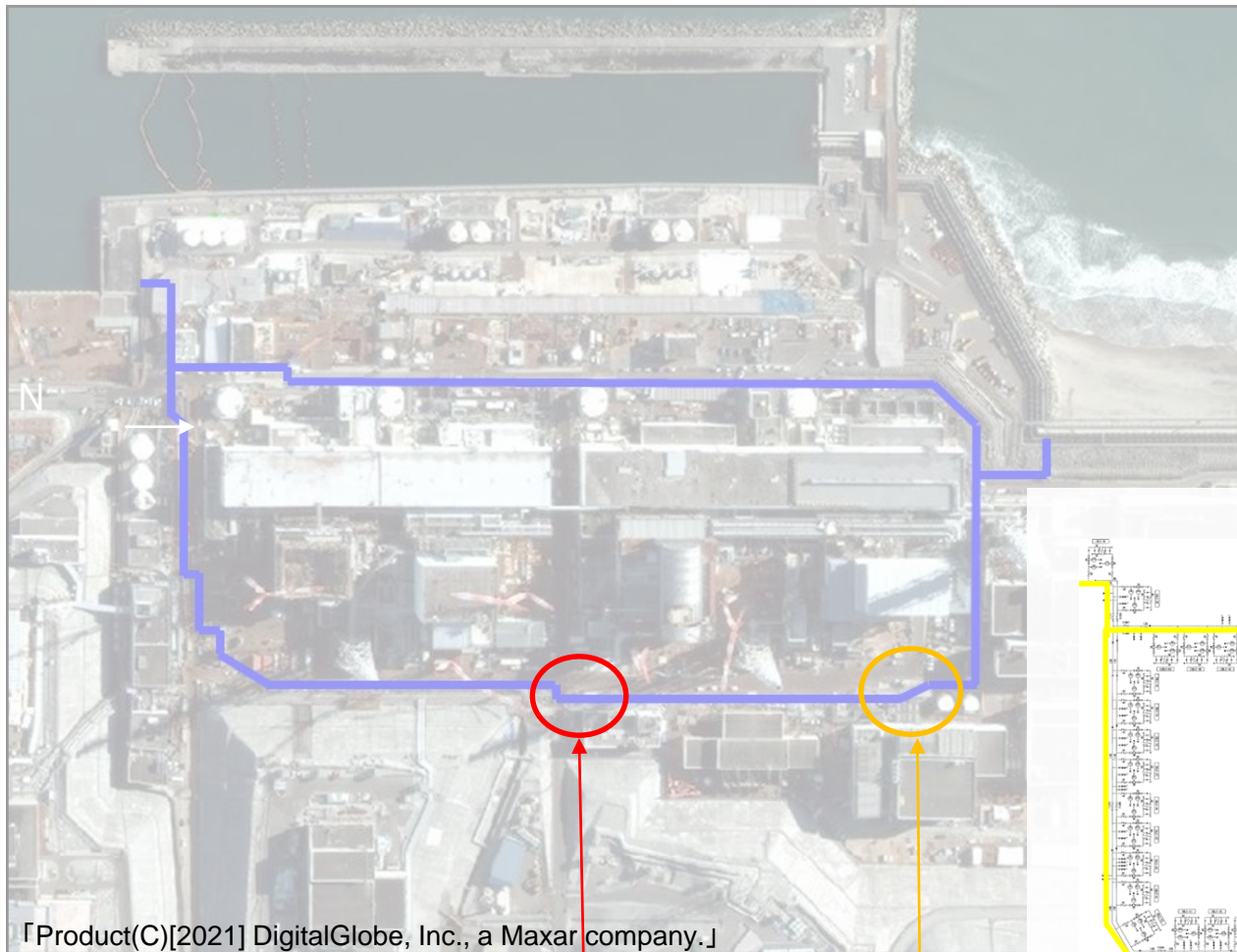
カップリングジョイント断面図

2. 測温管150-7Sの温度状況

- 測温管150-7Sの温度全体に上昇傾向が見られ始めています。
- これを踏まえ、念のため、温度上昇に係る調査を実施している測温管150-7Sに対し、プラント1系統からのブライン供給についても調整を実施しております。



位置図

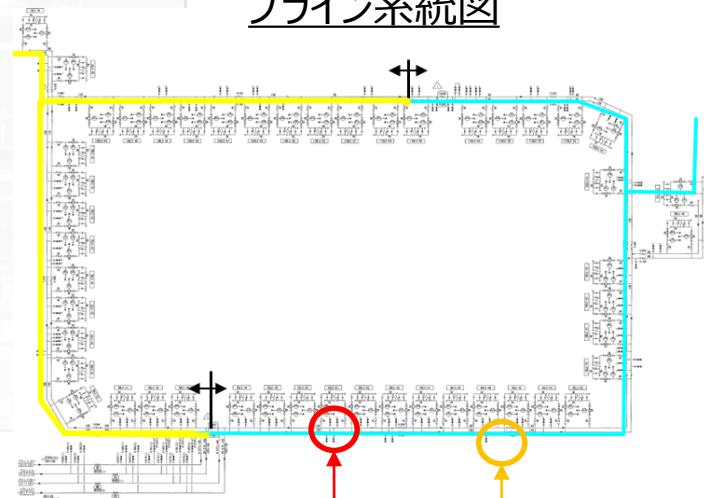


「Product(C)[2021] DigitalGlobe, Inc., a Maxar company.」

6BLK-H1エリア

測温管150-7S

ブライン系統図



プラント1

プラント2

6BLK-H1エリア

測温管150-7S